

筑豊地区 研究発表中間報告

研究テーマ 「確かな学力を育成するアクティブ・ラーニングを

意識した学習スタイルの研究

ーコンセンサス実習の活用を通してー」

助言者 安田 賢二 主任指導主事

(福岡県教育センター教科指導部教科教育班)

発表者 工藤 匠矢 教諭 (直方高校)

赤木 聖子 教諭 (嘉穂東高校)

司会者 城戸崎 康生 教諭 (嘉穂総合高校)

記録者 山下 敦子 教諭 (稲築志耕館高校)

## 1 研究体制について

工藤匠矢（直方高校）、山内省二・徳茂廣志郎（嘉穂高校）、

大田浩平（筑豊高校）、赤木聖子（嘉穂東高校）の5名でプロ

ジェクトに取り組む。2学期以降、これら5名の先生が、それ

ぞれの所属校の国語の授業で研究に取り組み、その後成果や課

題等を共有して、研究に取り組む。

## 2 研究テーマについて

アクティブ・ラーニングは、現在注目を浴びている言葉であ

る。大学入試の制度が変わることで、必然的に高校の授業も変

わっていかなければならない。そのため、教員は通常の授業の

中にアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れていこうとする姿勢が求められる。今回は生徒の「基礎・基本の定着」に留意し、様々な教科で活用することのできる「授業形態の雛形」を示す。

### 3 研究方法について

アクティブ・ラーニングを通常の授業の中でどのように取り入れていくかということで、コンセンサス実習を中心に取り組む。コンセンサス実習は、思考力・判断力・表現力を取得できるとされる学習方法である。まずは、生徒たちにコンセンサス実習とはどういうものであるかを知ってもらうために、「砂漠で遭難したときにどうするか」という問題を考えさせ、話し合いをさせる。

ゲーム感覚でなれさせたところで、教科に関する問題に取り組んでいく。

#### 4 アンケート調査項目について

アンケート調査を行っていない。

#### 5 指導助言

アクティブ・ラーニングを体験して理解するといって内容がわかりやすかった。中教審が学習指導方法で目指しているものは、生徒たちの

①深い学び②対話的な学び③主体的な学び

である。そのための柱として

①知識・理解②思考力・判断力・表現力③深い人間性・意欲

がある。その中の「思考力・判断力・表現力」を伸ばしていくた

めの方法として、アクティブ・ラーニングがある。

しかし、アクティブ・ラーニングを授業に取り入れていく中で、

アクティブ・ラーニングそのものが授業の目的になってしまうこ

とがある。そのためにもアクティブ・ラーニングは、あくまでも

教科・科目の目標に則って使用するということを忘れないよう肝

に銘じておかなければならない。最終目標は、生徒たちに「思考

力・判断力・表現力」をどのように伸ばしていくかであり、アク

ティブ・ラーニングは、あくまでそれらを身に付けるための手段

にすぎない。

## 6 今後の課題について

2学期以降、本プロジェクトの一員である先生たちが研究に取

り組むため、現時点でこの研究に関する課題はない。